

1. 研究課題名：A-1001 埋立地ガス放出緩和技術のコベネフィットの比較検証に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

山田 正人

((独)国立環境研究所

循環型社会・廃棄物研究センター)



3. 研究実施期間：平成 22～24 年度

4. 研究の趣旨・概要

京都議定書の約束期間が始まり、温暖化対策は緩和策・適応策の実施へと移りつつある。メタンの放出源である廃棄物埋立地に対して、我が国で開発された緩和策である準好気性埋立技術は途上国への適用性が高いコベネフィットな技術であるが、国際社会で十分に認知されていない。

本研究では、様々なスケールでの実験を行い埋立地で生ずる現象を定式化することにより、準好気性埋立技術の性能を評価する手法を開発し、他の埋立地ガス放出緩和技術と比較検証する。

当技術の温室効果ガス放出防止と水質汚濁防止に対する優位性を国際社会に認知させることで、我が国が排出削減の約束を果たし、アジア等途上国における環境政策を主導することに貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

① 埋立地ガス放出緩和技術の温室効果ガス排出抑制機能の比較評価に関する研究

((独)国立環境研究所)

② 埋立地ガス放出緩和技術の浸出水制御機能の比較評価に関する研究

(学校法人福岡大学)

③ 準好気性埋立技術の東アジア地域への適応化に関する研究

((独)国立環境研究所)

6. 研究のイメージ

埋立地ガス放出緩和技術のコベネフットの比較検証に関する研究

